

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児高等学校

学校番号

41

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの生き方あり方を主体的に考え、高い志と向上心を持って、自らが直面する課題に向かって行ける生徒 ・優れた自己管理能力と高いコミュニケーション能力を持ち、将来の日本社会・国際社会においてリーダーとして活躍できる、思慮深く俯瞰的な視点を持つ生徒 ・基本的生活習慣が確立され、強固な規範意識と社会性を持ち、誠実で礼儀正しく品位ある、心身ともに健全な生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に応じた手厚い指導によって基礎学力を定着させつつ、全教育活動での探究的学びによって、生涯に渡る主体的学習姿勢を育成 ・キャリア教育や総合的な探究の時間における校外諸機関と連携した活動や、行事や部活動等の特別活動における創造的・協働的な活動を通じて、コミュニケーション能力とリーダーとしての資質を醸成 ・交通安全教育をはじめとするマナー・規範意識向上の取組と、日々の学習習慣確立を通じて、「清新はつらつ」の校風にふさわしい社会性と人間性を育成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と切磋琢磨しつつ毎日の学習に真摯に取り組む、自らの可能性を伸ばして行こうとする生徒 ・地域社会への視点を大切にしつつ、広く日本社会・国際社会で自らの能力を発揮し活躍したいとの強い意欲を持つ生徒 ・周囲とのコミュニケーションの大切さを理解し、公正さと正義感を重んじて、笑顔と思いやりに満ちた人間関係の中で自らの力を伸ばして行きたいと考える生徒
3 現状の分析	<p>○ 生徒アンケートではすべての分野（教育方針、家庭との連携、教職員、学習指導、生徒指導、進路指導、健康管理・安全指導、学校行事）で肯定的な意見が昨年度よりも増加しており、学校生活の充実感が高いことがわかる。特に、「本校に入学できてよかったと思っている」との項目に「あてはまる・ややあてはまる」と肯定的に答えた生徒の割合が83.8%、「単に学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとする校風が感じられる」との項目について肯定的に答えた保護者の割合が79.8%と約8割の生徒、保護者が本校の教育について肯定的に捉えており、現在の本校の改革について理解を得ていることがわかる。</p> <p>▲保護者アンケートでは4つの分野（家庭との連携、教職員、学習指導、学校行事）で肯定的な意見が減少しており、学校生活の様子が保護者にうまく伝わっていないと推察できる。生徒と保護者の意見の違いに注目し、教育活動全般における保護者との連携について工夫する必要がある。特に「学校は、ホームページ等を用いて、保護者へ様々な情報を速やかに伝えている」との項目に肯定的に答えた保護者の割合は69.6%で昨年度と比べて7.9%減少した。また「学校は、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している」との項目に肯定的に答えた保護者の割合は、63.1%で昨年度と比べて13.4%減少した。すぐメールやホームページを積極的に活用した情報発信や、授業公開などの機会を増やしたりして保護者の理解を深める工夫が必要である。</p>		
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領で求められる学力の育成、共通テスト、大学入試の変化への対応 ・進路希望の多様化に対する対応 ・学校の広報活動・情報発信の更なる充実 		
5 今年度の具体的な重点目標	<p>◇ 希望する進路が達成できる高校を目指します。</p> <p>(1) 学習習慣を身につけさせ、主体的・対話的で深い学びを目指す指導を行います。(2) 生き方あり方の指導を行います。</p> <p>◇ 礼儀正しい高校生を育成する高校を目指します。</p> <p>(1) 豊かな心を育成します。(2) 基本的生活習慣の定着とマナーの向上を図ります。</p> <p>◇ 交通安全教育に重点を置く高校を目指します。</p> <p>(1) 交通安全教育を充実させます。(2) 生徒の安全確保のための指導を充実させます。</p>		

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価		
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容・評価項目 の達成状況等	10 評価 A・B C・D	11 成果と課題
教務 進路指導	①基礎基本を重視し、わかる授業、充実感を与える授業に努めます。宅習記録を活用して学習習慣の定着を図るとともに自己管理能力を高め、自学自習の態度を育てます。	①宅習記録と各種テストの成績の関係を分析。年間を通して、教員同士の授業参観や各教科授業研究会を開催。校内公開授業や全職員の授業改善研修の実施。	・授業評価アンケート、各クラスで毎日の宅習記録(学習時間調査)を実施した。(教務・進路指導) ・各教科内外でお互いの授業を見合う研修を実施した。(教務)	B B	【学校評価アンケート結果】 <学習指導> 生徒 R4 69.8% ⇒ R5 70.4%↑ 保護者 R4 69.0% ⇒ R5 61.7%↓ <進路指導> 生徒 R4 84.3% ⇒ R5 84.9%↑ 保護者 R4 77.3% ⇒ R5 78.1%↑ ○担任が学習時間調査からみられる生徒の状況を踏まえた生活面や学習面(進路指導)でのきめ細やかな指導に活かすことができました。 ▲各教員が生徒の主体的な学びを促す授業の工夫ができたが、授業評価の結果を踏まえた更なる授業改善が必要である。 ▲学習指導の実態を保護者にも伝わる形で広報できるとよい。 ○学力の伸長、定着度について細目に観測ができ、それぞれの生徒に適切な助言ができた。 ○様々な講座に多くの生徒が参加できた。 ○進路だよりの発行により、進路指導に対する肯定的評価は保護者・生徒ともに増加した。
	②習熟度や到達目標に応じた授業を工夫するとともに、ICT機器を有効活用した授業を通して、学ぶことの意義や面白さを伝え、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促します。また、探究的学びの視点を全教育活動に位置付け、授業改善を推進します。	②生徒による授業評価の実施。各種テストの成績分析。各教科内で授業改善のための研究会、情報交換を実施。年2回の公開研究授業や進路関係の職員研修の実施。	・年間を通して授業評価を踏まえた授業改善を働きかけた。定期考査だけでなく、外部模試などを通じて客観的な成績分析を行った。(教務・進路指導) ・外部講師を招いて複数回研修を実施した。(進路指導)	A B	
	③キャリア教育を通して、生き方の方を考える機会を充実させます。	③土曜や放課後の各種講座、キャリアガイダンス等の実施。学校評価アンケートの分析。	・生徒の興味・関心を高める土曜講座の計画、外部の講師を招くなど生徒のキャリア教育に資する放課後講座が実施できた。(進路指導) ・講座毎にアンケートを実施し、次に生かす工夫ができた。(進路指導) ・進路だよりを充実し、多くの情報が提供できた。(進路指導)	A A	
特別活動 探究	①特別活動や探究的学びにおける主体的、創造的、協働的な取り組みを通じて、豊かな人間性を育成します。	①生徒会を中心に、文化祭、体育祭等の特別活動の充実。探究活動における地域との連携強化の推進。学校評価アンケートを通じた生徒、保護者の充実度の分析。	・生徒会が中心となり、アンケートを実施。行事後にも生徒、教職員にFormsを活用したアンケートを実施して、次につながる工夫に努めた。(特別活動) ・生徒の主体性に任せつつ教員が適宜助言をし、積極的に探究活動を進めることができた。(探究)	A A	【学校評価アンケート結果】 <学校行事> 生徒 R4 75.3% ⇒ R5 81.1%↑ 保護者 R4 70.1% ⇒ R5 69.5%↓ ○アンケートの実施で生徒の声を踏まえた企画ができた。運営にも生徒が主体的に関わる事ができた。 ○継続して教職員全員が協力して探究活動をサポートしていく工夫が求められる。

教育相談 生徒指導	①教育相談的な指導を充実させ、豊かな心と道徳的実践力を養成し、思いやりのある生徒を育成します。また、嫌がらせやいじめを決して許さない環境を作るとともに、情報モラルの向上にも努めます。	①年2回の教育相談週間の実施。学校行事、校外研修やLHRの充実。スクールカウンセラーの活用及び職員研修の実施。「心のアンケート・いじめアンケート」への迅速かつ細やかな対応。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の教育相談週間、毎月の心のアンケート、年3回のいじめに関するアンケートを実施した。(教育相談・生徒指導) ・スクールカウンセラーや通級指導を活用し、生徒への細かな声掛けと教員間の情報共有を行った。(教育相談) 	<p>B</p> <p>【学校評価アンケート結果】</p> <p><家庭との連携></p> <p>生徒 R4 87.0% ⇒ R5 87.3%↑</p> <p>保護者 R4 77.5% ⇒ R5 75.6%↓</p> <p>A</p> <p><教職員></p> <p>生徒 R4 80.2% ⇒ R5 82.4%↑</p> <p>保護者 R4 68.4% ⇒ R5 68.2%↓</p> <p><生徒指導></p> <p>生徒 R4 81.6% ⇒ R5 87.2%↑</p> <p>保護者 R4 63.0% ⇒ R5 64.2%↑</p>
	②時間を守る、挨拶ができる、端正な身だしなみをはじめ、基本的な生活習慣の定着と規範意識向上の継続的な指導を通して、礼儀正しく品位ある高校生を育成します。	②身だしなみ指導、遅刻、遅下校防止指導の実施。個に応じた柔軟な指導体制の構築。生徒の意識調査の実施と分析。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、身だしなみ、遅刻、遅下校防止指導を実施するとともに生徒の状態を踏まえて、心の成長を促すことを念頭においた柔軟な指導を心掛けた。(生徒指導) 	<p>B</p> <p><健康管理・安全指導></p> <p>生徒 R4 83.2% ⇒ R5 90.6%↑</p> <p>保護者 R4 77.5% ⇒ R5 80.7%↑</p>
	③交通安全教室・講話、全校統一交通安全LHR、交通事故の危険性を疑似体験させる教育事業(スケアード・ストレイト教育技法)、生徒による啓発活動、全校集会などを通じて、交通安全に対する意識の向上を図ります。	③交通安全教室・交通安全ロングホームルームの実施。交通安全関係の啓発活動や全校集会の実施。意識啓発のための生徒指導通信の発行。アンケートによる意識調査と分析。交通事故件数の減少目標設定。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導通信を定期的に発行して、交通安全等の啓発活動や全校集会での話を通して意識啓発を心掛けた。特に交通事故等については、生徒指導通信を通して、素早い情報伝達を心掛けた。 ・ヘルメットの着用については、スタントマンによる実演を通じた意識啓発を行った。(生徒指導) 	<p>C</p> <p>○普段から学年主任、クラス担任との連携ができており、心のアンケートの結果にも即時に対応できた。</p> <p>○教育相談週間だけでなく、困っている生徒を早期に把握し、スクールカウンセラーや通級指導等につなげることができた。</p> <p>○必要に応じて、職員会などで、学年の情報を学校全体に共有することができた。</p> <p>▲生徒主導の基本的な生活習慣と自転車マナーの向上を図りたい。</p>
	④生徒指導部、全職員による交通安全指導、保護者との連携した登校指導、生活委員による駐輪場指導などを実施し、生徒の安全の確保を図ります。	④生徒指導部による毎日の交通安全指導の実施。PTAとの連携した登校指導の実施。アンケートによる意識調査の実施と分析。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA職員合同の挨拶運動(交通安全運動)を実施。(生徒指導・渉外) 	<p>B</p> <p>▲遅刻指導の方法等の再構築</p> <p>▲生徒指導部通信(梨花)を工夫して事故や自転車のマナーの向上につなげていく工夫ができる。</p> <p>▲昨年に続き、自転車事故の件数の多さが気になる。</p> <p> 昨年度：30件(3月6日時点)</p> <p> 今年度：19件(1月15日現在)</p> <p>▲自身の命を守るという意識で、ヘルメット着用率を上げる工夫が必須である。</p> <p>○PTAと協力した朝の登校指導は、参加者からも大変良い評価を得ており、継続していく。</p>

12 総合評価	A (B) C D
13 来年度に向けた改善方策案	<p><教務・進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力だけでなく、自らが未来の担い手として社会で活躍できる力の育成を軸に掲げ、教務部、進路指導部が連携・主導して、授業改善、キャリア教育の更なる充実、生徒が主体的に活躍できる機会（学習支援ボランティア等）の充実を図る。 ・教員同士が教材研究や授業参観を通じた授業研究、評価方法についての議論を行うなど、引き続き「授業改善」をテーマにお互いの授業力向上を図る。 ・年間を通して、保護者や地域の方々にも授業を見ていただく機会（公開授業期間）を拡充する。 ・可児高校広報活動の充実・工夫（ホームページ、地域の回覧版、可児市内各種施設への可児高だより設置、中学校・塾などへの訪問等）を図る。 <p><特別活動・探究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな体育祭（体育館での開催）、文化祭の開催とPTAと協力体制を構築する。 ・生徒が主体的に学校改革に参画できるような生徒会中心の活動を企画・運営する。 ・持続可能な探究活動の計画・実施、各教員へのノウハウの共有を図る。 ・中学校や他の高校とオンラインでつなげるなど、探究の発表形態を工夫する。 <p><教育相談・生徒指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よき自転車運転者の育成」を柱とし、生徒が自ら命を守るという意識の転換を迫る指導を実践する。 ・生徒指導通信の充実（ホームページへの掲載なども含む）を図り、意識啓発につなげる。 ・情報モラルやいじめに関する指導を徹底する。 ・特に入学後間もない新1年生の指導（交通安全・情報モラル）を丁寧に行う。 ・担任、学年団、教科担任等の生徒情報共有と教育相談部との連携を強化する。 ・スクールカウンセラーや通級指導等の適切な活用で個に応じた柔軟な対応に努める。

II 学校関係者評価 実施年月日：令和6年2月14日

- ・参観した授業から、全体的に生徒の表情が明るい。また、先生の発問に対する反応の良さから、話をよく聞いていることがわかる。タブレット等のICTを活用し、生徒同士が交流しながら授業を受けている場面も多くみられ、教員の努力も感じられる。最初から先生がすべて説明するのではなく、先生の問いかけに生徒がペアで考えを共有するなど主体的に考える場面も多くあり、みんなで学びを共有し、深めるという姿がよい。このような学びから思考力や表現力が高まっていると感じる。
- ・可児高校は、一昔前は勉強だけさせられているというイメージがあり、外から見て楽しく学んでいるという感じではなかった。現在は、土曜講座等の充実で、教科外のことも学べているのは魅力である。このような様子をこれからもどんどんアピールしていくべきである。
- ・外部体育館での体育祭開催や校則の改定について、教員が一方的に方向性を決めるのではなく、生徒会中心に生徒が学校行事や校則の在り方を変えるにはどうしたらいいのかを自分たちで考えており、自主自立という面でもとても良い動きが見られた。自由と責任と一緒に考える機会となり、学力以外の部分でも力が付くのではないかと期待する。
- ・可児警察署とJAの協力によるスタントマンを招いた自転車交通安全教室では、自転車による交通事故の再現や説明があり、生徒が交通安全について考える良い機会となったと思う。しかし、実際にヘルメットをかぶっている生徒がまだ少ないように思う。命を守るために今後も努力をしてほしい。
- ・可児高校の学校改革は、大学進学その先にある社会での生徒の活躍を願って進んでいる。学習と学校行事や探究活動の中で生徒の「人間力」を付けようとの試みを今後も続けてもらいたい。可児高校の変化の様子は、地域の小学生の子どもをもつ親も関心を示しており、早い時期から情報収集されている方が多い。定員割れの印象があったが、自分たちの子どもが入学する頃に変わっているなら楽しみだという意見もある。広報の方法も更に工夫し、可児高校の様子を伝えていってもらいたい。
- ・年3回の学校運営協議会に参加して、毎回、授業を見るのを楽しみにしていた。最近では地域で「可児高校は最近変わってきている」との声を聞くこともある。学校改革も浸透してきているのではないかと。実際に学校を訪問し、生徒や教員の姿を見ても、改革の成果を実感する。引き続き、頑張ってもらいたい。